

御前浜2006年8月 調査報告

総合科学(株)・兵庫県立大学環境人間学研究所
笠原 茂

調査概要

- 目的

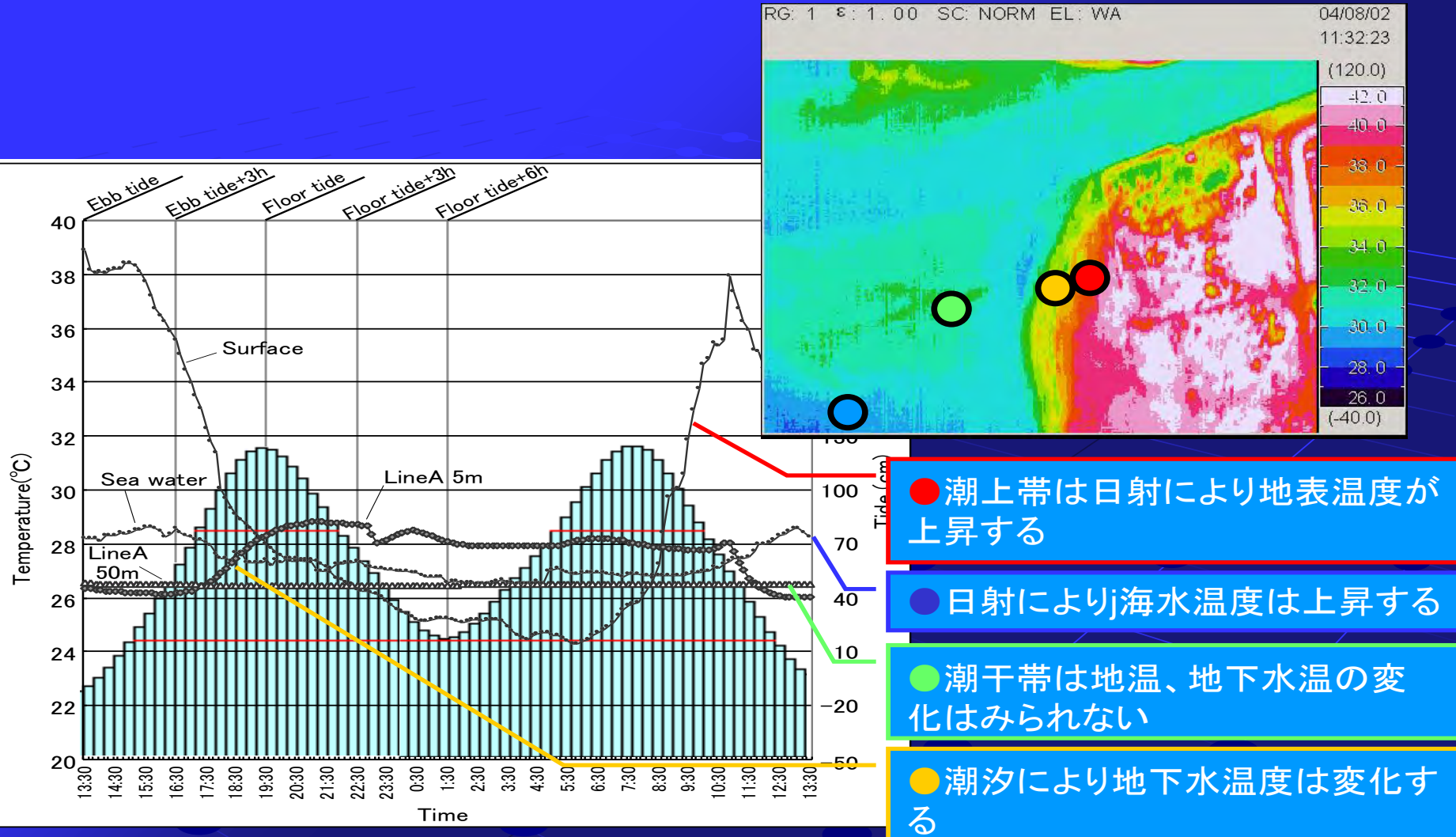
温度を指標として、干潟の地下水流動状況を把握することを目的とする。

- 調査概要

干潟にメモリー式水位水温計を地表、深度0.5m、1mに設置し、潮汐と温度変化の関係から、地下水流動状況を推察した。

背景

地温・地下水温測定(3)

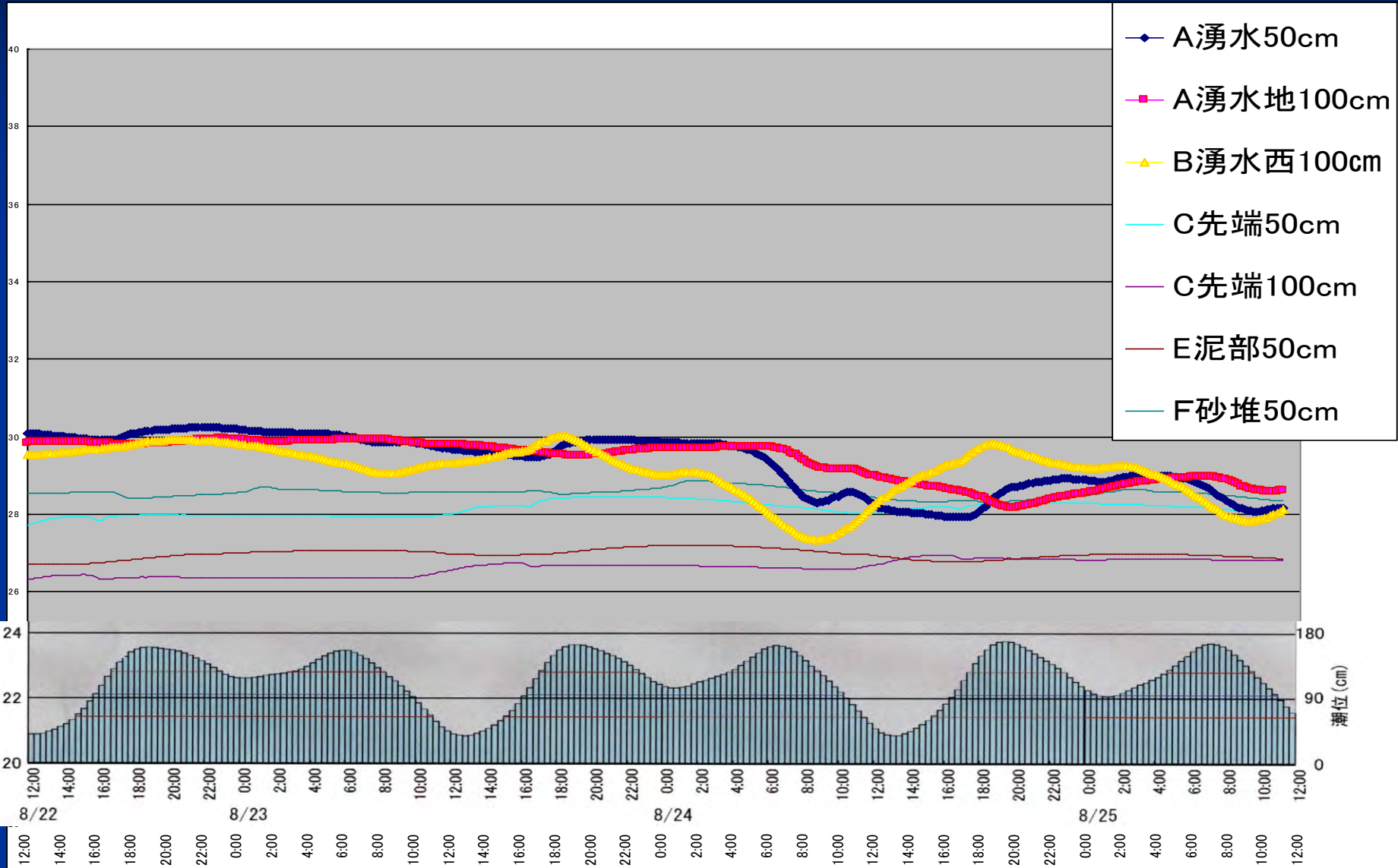


調査地点



地点名	条件	0m	0.5m	1.0m
A	湧水地	○	○	○
B	湧水地	○	×	○
C	先端部	○	○	○
D	河川	○	—	—
E	泥干潟	○	○	×
F	砂堆	○	○	×
G	海域	○	—	—
H	砂浜	○	—	—

GL-0.5m、GL-1.0mの温度



成果と課題

■ 干潟の地表温度：

湧水地点、泥質部は昼間の干出時間帯では、他の地点の比べ低温である。

夜間に干出する地点で温度の低下がみられた。

■ 干潟のGL-0.5m、GL-1.0mの温度：

湧水地点で満潮時の後に温度が低下する傾向がある。

■ 2004年調査との比較：

湧水地における温度変化が少ない（湧出量の減少？降水量の変化？涵養域の変化？地点移動？）

今後の展望

「河口域の干潟における地下水流動が底質環境に及ぼす影響把握に関する研究」(H18.10－H19.10
ニッセイ財団 環境問題研究助成 代表井口博夫)

- 干潟底質の温度、ECの長期間測定による地下水流動、潮汐との関係把握
- ボーリング調査による干潟の堆積構造と形成過程の把握
- 干潟底質の室内実験による間隙水の変化の把握
- 既存資料による底質環境と底生生物との関係把握